

[illegible]

速度、上昇力
(各高度において)

旋回
急降下
上昇限度
航続距離
防御力
武装力

航空機戦闘報告書

(攻撃を行わなかった場合は、このシートを省略すること)

3

報告書番号 5-45

XI. 敵艦船または地上目標への攻撃(本報告書II項に記載の味方機によるもののみ)

(a) 目標および場所 横須賀飛行場(目標番号298)、八街飛行場(目標番号2804) (b) 目標上空時刻 10:40~12:25(日本時間)

(戦艦については、攻撃区域内の全隻を対象とせよ)

(c) 目標上空の雲 なし

(雲底の高度(フィート単位)、雲の種類および雲量(10分率))

(d) 目標の視認性 快晴 (e) 視程 20マイル(約32km)

(快晴、霞、所々に雲、その他)

(マイル)

(f) 攻撃戦術: 種類 急降下爆撃 使用照準器 Mk8 ガンサイト

(水平飛行、滑空、急降下)

(種類)

1回あたりの投下数 2発 間隔 一斉投下 投下高度 5000~6000フィート(約1,524~1,829m)

(NUMBER)

(フィート)

(フィート)

(g) 地上にて命中させた敵機: 破壊 観測 概ね破壊 観測できず 損害 観測できず

(h) 照準点	(i) 寸法またはトン数	(j)機数 (k)部隊名	(l) 各照準点ごとの爆弾・弾薬消費量	(m) 照準点への命中数	(n) 損害(なし、軽微、重大、撃破または撃沈)
横須賀飛行場西側の掩体壕群		8機 第16戦闘飛行隊	260ポンド破片爆弾 15発	観測できず	観測できず
横須賀飛行場南東の掩体壕		1機 第16戦闘飛行隊	260ポンド破片爆弾 2発	観測できず	観測できず
横須賀飛行場南側の建物群		3機 第16戦闘飛行隊	260ポンド破片爆弾 6発	観測できず	観測できず
八街飛行場南東の掩体壕群		7機 第16戦闘飛行隊	5インチロケット弾 14発	観測できず	観測できず
八街飛行場北側の建物と航空機		1機 第16戦闘飛行隊	5インチロケット弾 2発	観測できず	観測できず
八街飛行場南西の建物群		2機 第16戦闘飛行隊	5インチロケット弾 4発	観測できず	観測できず
八街飛行場北の掩体壕群		2機 第16戦闘飛行隊	5インチロケット弾 4発	観測できず	観測できず
八街飛行場(全攻撃)		12機 第16戦闘飛行隊	50口径機銃	観測できず	観測できず

(o) 戦果: (艦船目標への全命中弾、および特に重要な地上目標については、命中弾の種類と箇所を示す図を描画すること。全ての目標について、命中箇所とその効果を記述し、上記の番号で識別すること。必要であれば、別紙を使用せよ)

横須賀飛行場および八街飛行場の掩体壕群に対して、爆弾やロケット弾を広範囲に着弾するもVT信管(近接信管)の使用による高高度での投下のため、航空機の識別および戦果の観測は困難であった。

(p) 写真は撮影されたか? いいえ 損害を写した写真がある場合は、ホチキスで添付すること。

XII. 戦術および作戦データ (物語形式の報告と所見。左のチェックリストにある該当項目に沿って、行動の全てを記述し、自由に意見を述べる。必要であれば、別紙を使用せよ。)

敵との交戦

味方機
配置
高度
速度
接近戦術
遮蔽物の利用、欺瞞
攻撃角度とその有効性
射撃開始距離
防御戦術とその有効性
敵機
発見方法
距離
配置
高度
速度
接近戦術
遮蔽物の利用、欺瞞
攻撃角度
射撃開始距離、防御戦術

所見および提言事項

自軍の弱点
敵の弱点
攻撃戦術
自軍の攻撃戦術
敵の防御戦術
自軍の防御戦術
敵の防御砲火
自軍の護衛戦術
戦闘機管制
レーダーの活用
夜間戦闘
敵味方識別、航空機

攻撃

自軍の戦術
目標の発見方法
目標への接近
(高度、速度)
最終進入
急降下
引き起こし
急降下角度
機銃掃射
離脱
防御戦術
電波妨害の活用
敵軍の防御
回避戦術、艦船の偽装
探照灯
夜間戦闘機の戦術
電波妨害の活用
所見および提言
爆撃戦術
雷撃戦術
爆弾・魚雷の有効性
目標の選定
信管設定
機銃掃射戦術
防御戦術
レーダーの活用
偵察
写真撮影
ブリーフィング

作戦運用

航法
帰投誘導
合流
識別、艦船
通信
飛行運用
搜索および追跡
基地運用
整備

第16戦闘飛行隊の12機と、第34戦闘飛行隊の8機が合流し、高度17,000フィート(約5,182m)まで上昇し目標空域へ進撃。

編隊は千葉半島の南を通過し、南西方向から横須賀へ接近。(日本時間)午前11時35分、高度17,000フィート(約5,182m)からコース085°(東北東)で攻撃開始した。目標への最終進入コースにおいて、激しい重対空砲火を受けるも、砲弾の多くは機体の後方、または下方で炸裂し、被弾はせず。搭載した爆弾のVT信管(近接信管)の都合上、5,000~6,000フィート(約1,524~1,829m)からの投下が必要だったため、同高度からでは飛行場上の航空機位置を正確に捉えることが困難だった。そのため、多くのパイロットは飛行場西側に広がる掩体壕エリアを狙って爆弾を投下。パイロット1名は南東の周縁部にあった掩体壕らしきものへ投下、航空機を発見できなかったパイロット3名は飛行場南側の建物群へ投下した。攻撃は破片爆弾によるもの。ただし、攻撃の結果は未確認。

(目標地域の横須賀飛行場からの)離脱は、東京湾と千葉半島を南東に横切り、東の沖合で再合流することとなった。攻撃のため高度低下後、激しい重対空砲火から、低高度を狙う猛烈な機関砲射撃に変わり、東京湾周辺に停泊中の艦艇や飛行場東方の島からも砲火が加わり、両方とも射程外になるまで執拗に続けられた。対空砲火は、偏差射撃も含め、多くは機体の後方へ逸れたが、炸裂する高度は比較的正確であった。

再合流後、編隊は八街へ進撃、射程圏内に接近した際に犬吠埼から重対空砲火を受け、即座に南方へ針路変更した。午後12時25分、高度14,000フィート(約4,267m)から方位をコース315°(北西)で最終進入を開始。目標を探すためにわずかに攻撃を遅らせた後、方位をコース150°(南南東)に取り攻撃を実施。高度10,000フィート(約3,048m)まで降下したところで中程度の機関砲射撃が始まり、これも射程外に出るまで追尾した。7機が飛行場南東の掩体壕群にロケット弾を発射。パイロット1名による飛行場北側での双発機を視認し、ロケット弾を発射。他のパイロット2名は北側の掩体壕へ発射。航空機を視認できなかったパイロット2名は飛行場南西の建物群へ発射し、全機が機銃掃射を行った。その後、東方沖へ離脱し、海岸から10マイル(約16キロm)沖で再合流した。

また、八街への最終進入中、パイロット1名が、横須賀飛行場からと思われる相当量の黒煙を目撃した。

八街への攻撃結果は、未確認。

この作戦行動中における、空中での敵機との遭遇=なし。

5

報告書番号 5-45

XIII. 資料データ(左のチェックリストに沿って、性能や適合性について自由に記述すること。必要であれば、別紙を使用せよ。)

兵装

銃、照準器

砲塔

弾薬

爆弾、魚雷

爆撃照準器

爆弾投下装置

通信

無線機、レーダー

帰投誘導装置

視覚信号

コード、暗号

通信

敵味方識別装置(IFF)

信号

手順

防御

装甲箇所、およびさらなる防御が必要な射角

防漏装備

緊急装備

パラシュート

救命帯、救命ボート

安全ベルト

緊急キット

レーション、救急用品

航法装備

コンパス

偏流測定器

八分儀

自動操縦装置

海図

飛行場灯火

計器

飛行計器

エンジン計器

酸素システム

迷彩および欺瞞装置

構造

機体フレーム

操縦翼面

操縦系統

ダンプフラップ

着陸装置

暖房システム

飛行特性(様々な搭載量において)

動力装置(パワープラント)

エンジン

エンジン補機類

プロペラ

潤滑システム

始動機

排気炎減衰器

油圧システム

電気系統

補助電源装置

灯火

燃料系統

飛行服

整備

基地施設

機体整備用機材

人員用施設

特記事項なし。

報告書作成者

O.R. ウェイツ
海軍予備役少佐
第16戦闘飛行隊 航空戦闘情報士官

承認者

C.S. モフェット
海軍少佐
第16戦闘飛行隊 司令

P.A. スミス
海軍予備役少佐
第16空母航空団 航空戦闘情報士官

レイ・デイヴィス
海軍中佐
第16空母航空団 司令

報告書作成者:

承認者: